



小児医療センターだより

小児医療センターの取組 ～地方独立行政法人化2年目の現在～

事務局長 ちの 千野 まさひろ 正弘

当センターが地方独立行政法人に移行し2年目を迎えました。去る9月に県から初年度の事業についての年度評価結果が示されました。その中で当センターに関しては、「小児の新型コロナウイルス感染症患者を多数受け入れるとともに、さいたま赤十字病院と連携して緊急肝移植を含む小児生体肝移植について全国トップレベルの実績を挙げたことは特に評価する。引き続き周産期医療や小児重篤救急患者の受入れ、小児がん患者等への高度専門医療の提供に努めるとともに地域医療支援病院として県内の医療水準の向上に貢献してもらいたい。」との評価を得ることができました。期待と不安が入り交じる中でスタートした1年目でしたが、何とか順調な一歩を踏み出せたのではないかと思います。こうして迎えた2年目ですが、7～8月の夏休みで患者さんが集中する時期と新型コロナウイルス感染症の第7波が重なり、接触による職員の自宅待機なども増加したため、厳しい局面がありました。9月半ば過ぎからようやく落ち着きを取り戻してきましたが、11月に入り感染者数が増加しており心配な状況です。

これからも、感染防止対策と通常診療のバランスに配慮しながらの病院運営が求められますが、現在当センターで進めている取組についていくつか御紹介させていただきます。まず一つ目は独法化と同時に昨年度からスタートし、大きな成果を上げてきている入退院支援センターです。当センターの2階入口を入ってすぐ右側にコーナーを設けており、患者さんの入院前の準備から退院までの流れの説明などをワンストップで行っています。また、できる限り患者さんを受け入れられるよう各病棟とも柔軟で円滑な調整を行っています。

二つ目として、当センターでは設備面の改善にも努めています。昨年度は、入院病棟の9階から12階にW I - F I設備を整備しました。今年度は、1階から3階の外来スペースなどにも整備する予定です。通信環境の改善により、コロナ禍で感染防止対策のために面会等に制約をお願いしている患者さん・御家族等の支えに少しでもつながることを期待しています。また、当センターの課題の一つとなっている駐車場の待ち時間につきましては、屋上カメラを設置してリアルタイムで混雑状況を発信できるよう現在整備を進めています。

三つ目は災害拠点病院としての機能強化です。昨年度は、災害が発生した場合の病院内の災害対策本部機能を十分に発揮させるため、従来のマニュアル類を大幅に見直し、新たに「災害対策本部マニュアル」を策定しました。今年度は、災害時に多くの患者さんを受け入れることを想定し、災害時トリアージマニュアルを整備し、実際にその訓練まで行うことを目標にしています。

今後は、県内医療機関との信頼関係をより一層強固なものとする一方で、紹介患者さんの受入や当センターでの治療を終えた退院患者さんの紹介などに関して密接な連携を進めることが益々重要になると考えています。第1期中期目標期間である令和7年度に向けてPDCAサイクルをしっかりと回し、体制の充実を図るとともに、職員一丸となって高度専門医療の提供に務めてまいります。引き続き、小児医療センターに対する御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより 第24号 ご案内

- 事務局長あいさつ…………… 1
- 診療部門紹介 消化器・肝臓科… 2
- 診療部門紹介 救急診療科…………… 3
- 看護部紹介 NICU・GCU…………… 4
- コ・メディカル部門紹介 地域連携室… 5
- お知らせ…………… 6
- 医療機関の皆様へ 受診の御案内…………… 6
- 病院へのアクセス…………… 6



診療部門紹介

消化器・肝臓科



科長 いわま 岩間 いたる 達

対象疾患

- 炎症性腸疾患
(潰瘍性大腸炎、クローン病など)
- 腸管バネレット
- 機能性消化管障害
(機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群など)
- 慢性便秘
- 好酸球性食道炎
- 好酸球性胃腸炎
- 乳児難治性下痢症
- 消化管アレルギー
- 逆流性食道炎
- 胃・十二指腸潰瘍
- IgA血管炎
- 異物誤飲
- H.Pylori感染症
- 食道静脈瘤
- 消化管ポリープ
- 消化管出血
- 消化管GVHDなど



- 急性肝炎
- 急性肝不全
- 肝線維症・肝硬変
- 胆汁うっ滞症候群
- B型肝炎
- C型肝炎
- 脂肪肝
- ウィルソン病
- シトリン欠損症
- 肝ミトコンドリア病
- 自己免疫性肝炎
- 原発性硬化性胆管炎
- 門脈血管異常症
- 急性膵炎
- 遺伝性膵炎
- フォンタン術後肝障害
- 胆管胆石症など



下痢，血便，便秘，嘔気・嘔吐，腹痛，反芻，
黄疸，肝酵素上昇，体重増加不良，成長障害など

これらの症状でお困りの患者様がいらっしゃいましたらご相談ください。



内視鏡や肝生検を武器に、チーム医療で患者様の問題解決に尽力しています



2021年度診療実績

入院件数	350 件
初診件数	685 件
内視鏡検査件数	650 件
・上部消化管	315 件
・下部消化管	240 件
・小腸カプセル	82 件
・小腸バルーン	6 件
・ERCP	7 件
肝生検（腹腔鏡含む）	12 件

診療部門紹介

救急診療科



科長 **植田 育也**
うえた いくや



小児救命救急センターは、24時間体制で重篤な救急患者の受け入れを行う救急外来（ER）、小児集中治療室（PICU）および準集中治療室（HCU）で構成され、救急診療科、集中治療科、外傷診療科の3科により運営されています。県内外のお子さんの救命救急医療や周術期管理を中心とした急性期医療に関わっております。

本項ではこのうちの「救急診療科」をご紹介します。

○救急診療科とは

病気・怪我の区別なく、生命の危険な状態にある患者様に対し、24時間365日いつでも、迅速で的確な診療を行えるよう心掛けています。

特に当センターは、地域の小児医療体制の中で効果的にその役割を果たすため、原則的に直接来院される患者様の一般救急外来診療は行っておりません。急な病気でお困りの際は、まずは#8000にご相談いただく、あるいは地域の急患センターを受診いただければと思います。



初療室



救急スタッフと医療安全推進3Word

対象疾患

生命の危険な状態にある重篤な救急患者様

外因性救急

外傷、熱傷、急性中毒、溺水、
窒息、異物誤飲、刺咬症など

内因性救急

急性呼吸不全、喘息重積、
敗血症性ショック、心筋炎・心筋症、
意識障害、けいれん重積、急性腹症など

小児に特有な疾病

BRUE
(Brief Resolved Unexplained Events) など

その他

院外心停止、重篤な身体合併症を有する
精神科救急など

○診療方針

重篤な救急患者様の搬入後、

(1) 救急初療室でABCD（A-気道、B-呼吸、C-循環、D-意識）の評価と安定化のための蘇生処置と病態の把握、治療戦略の決定を行い、

(2) 必要とされる各種検査、外科的処置ならびに薬剤投与等を施行し、

(3) 治療継続のため、小児集中治療室（PICU）、小児準集中治療室（HCU）へ速やかかつ安全に移送します。

この間、各診療科による高度な専門的治療が必要となった場合には、院内各専門診療科ないしは隣接するさいたま赤十字病院高度救命救急センターの協力を仰ぎ、適切な時期に適切な専門的治療を行います。

また、病院前救護にも力を入れています。さいたま赤十字病院が運用する現場出動型のドクターカーに小児傷病者事案で出動要請がかかった場合、当科ER担当医師を派遣し、早期の医療介入を実現しています。

○院外の皆様とのつながり

生命の危機にある重篤な状態の救急患者さんを診療されている場合は、24時間いつでも集中治療科までご連絡いただければ、ドクターカーを使った依頼元医療機関への迎え搬送も含めて、対応いたします（既に診断がついており、状態が安定している場合は、従来通り当院の各診療科へご相談ください）。

救急患者で重症度としては低いものの、詳しい診察や入院加療が必要な場合は、病院代表にお電話いただければER担当医師が対応いたします。

また小児救命救急センターでは、小児の救命救急・集中治療の研鑽を積みたい医師を募集しています。随時、見学・相談が可能です。興味のある方は、下記のEメールアドレスまでご連絡ください。

埼玉県立小児医療センター 小児救命救急センター長 植田育也
E-mail : ueta. ikuya@saitama-pho. jp

看護部紹介

NICU・GCU



NICU 師長 さとう たかゆき
佐藤 貴之
5A 病棟 NICU 新生児集中治療室

新生児病棟は、NICU30床とGCU48床の総病床数78床として、さいたま赤十字病院と共に総合周産期母子医療センターとして運用をしています。

24時間365日、埼玉県内のあらゆるハイリスク母胎・ハイリスク新生児の入院対応を行い、高度新生児医療および看護を提供しております。特に、他施設で対応できない在胎週数28週未満、1500g未満の低出生体重児の受け入れ、また、先天性心疾患の胎児診断症例など多くの新生児疾患を受け入れています。

令和3年埼玉県の出生数は、45,424人の新生児が誕生しました。NICUに昨年度入院した人数は、376名でした。その中で1500g以下は73名で、一番小さい赤ちゃんは300g台でした。

NICUでは、早産児や先天性心疾患、新生児仮死の赤ちゃんを看護しながら、赤ちゃんにとって大切な母乳育児支援、早期母子接触として、カンガルーケアを取り入れながら、ご家族と共に新生児看護を実践しています。さらには、出生前から、胎児診断外来やプレネイタルビジットなど、赤ちゃんが生まれる前から、ご家族に対する看護を積極的に実施しています。



NICU



GCU 師長 あさだ ちえ
麻田 智恵
5B 病棟 GCU 新生児回復治療室

GCUでは、NICUにおいて急性期の治療を終え、状態が安定してから受け入れています。時には1000gをやっと超えたまだ小さな赤ちゃんがNICUから転入することもあります。赤ちゃんの持つ力に合わせて、呼吸のサポートや哺乳練習をしています。その成長していく姿は感動でもあり、私たち働くスタッフにとって喜びにつながっています。

NICU、GCUに入院した赤ちゃんのご家族は、母子分離状態から始まり、疾患と向き合いながら、最終的には自宅に帰って生活することになります。そのため、GCUで赤ちゃんの状態が落ち着いてからは、ご家族と赤ちゃんが共に過ごし、ご家族が主体的に赤ちゃんのお世話ができる環境作りに心がけています。抱っこや授乳、沐浴、薬の投与といった日常生活で赤ちゃんが必要とする技術習得への支援も、私たちの役割です。特に心がけていることは、退院後の家庭環境をふまえた、それぞれの赤ちゃんやご家族に合わせた支援です。そのためにも退院が近くなると退院後の生活がイメージできるよう長時間の面会ができる環境を整えています。



退院するにあたり、院内の多職種と協議しながら、地域とも連携し、安心して退院できる看護を提供しています。今年度は退院する前の地域の保健センターや訪問看護ステーション、支援病院との話し合いの件数は、9月までで14件と増加傾向となっています。

退院後は、新生児外来とつくしんぼ外来といった、病棟独自の外来で継続的に支援を行っています。退院後、すくすく育っている姿を確認できることは、とても心あたたまることであると同時に、NICU、GCUの看護のやりがいを感じる瞬間でもあります。



コ・メディカル部門紹介

地域連携室

(地域連携・相談支援センター)



地域連携主査 しとう 紫藤 なおみ 直美

地域連携室では地域の先生方や医療機関の皆様からのお問合せやご依頼に、スムーズな連携が取れるようスタッフが対応しています。当センターへ患者さんをご紹介しやすい体制を整えるなど、地域の先生方や医療機関の皆様との連携を大切に、患者さんやご家族から信頼される存在となるよう日々活動を続けています。

<地域連携室の主な業務について>

地域の先生方や医療機関の連携室の方との窓口になっています

このようなお問合せ・ご依頼に対応しています

- 何科に紹介したら良いか知りたい
- 早期受診が必要なため相談したい
- 受入れが可能か確認したい
- 患者さんの診療情報が欲しい
- 患者さんの診療情報を送りたい
- 外国人の受診について相談したい など



このような調整をしています

- 患者さんの転院先医療機関との予約調整
- 患者さんの診療情報の作成依頼 など

患者さんの受診報告（返書）の管理と発送

受診報告（返書）はご紹介いただいた先生へ早急にお返しできるよう進捗管理を徹底し、迅速に発送処理をおこなっています。

患者さんの症状によってはお時間をいただく場合がございますが、早めのご報告を目指しています。

広報誌や病院冊子の発行、各ご案内の発送

当センターの診療実績や取り組みなど、最新の情報を発信しています！

- 広報誌「小児医療センターだより」の編集発行
- 病院冊子「診療のご案内」の編集発行
- 各ご案内の発送

セミナーや研修会の企画運営

埼玉小児疾患集談会、地域連携懇談会、県民のための医療セミナー等、様々なセミナーや研修会、症例検討会の企画運営をおこなっています。地域の先生方とのより良い連携のため、また、一般の方は、子どもの健康増進や病気・事故予防のため、多くの方にご参加いただけるセミナー・研修会となるよう運営しています。



患者さんのご紹介方法や受診の流れについては、p.6「医療機関の皆様へ 受診のご案内」に詳しく掲載していますのでご覧ください。

患者さんのご紹介件数などの管理

地域の医療機関からご紹介いただく患者さんの傾向と推移を把握し、当センターの地域医療連携に役立てています。

「いつも丁寧で迅速な対応」を心がけています。

これからも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域連携室スタッフ一同



救急医療体制整備
埼玉県知事表彰

9月9日、埼玉県知事より埼玉県の救急医療に功労のあった医療機関として当センターが表彰されました。



セミナー・講演会等の
ご案内

- ・12/3 (土) 県民のための医療セミナー 「こどもの風邪、何がほんと？」 R5年
 - ・2/16 (木) 第8回地域連携懇談会
 - ・3/9 (木) 第150回記念 埼玉小児疾患集談会
- 詳しいご案内は、病院のホームページに順次掲載します。

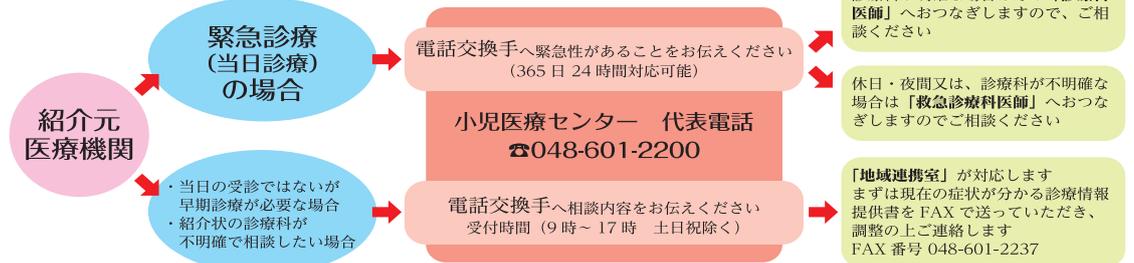
医療機関の皆様へ 受診のご案内



①患者ご家族からのご予約



②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ



病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- ・JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
 - ・JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
 - ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

小児医療センターだより第24号
令和4年11月発行
編集・発行 埼玉県立小児医療センター
地域連携・相談支援センター



埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200 (代表) Fax▷048-601-2201
E-mail▷scmc@saitama-pho.jp
U R L▷https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html



埼玉県立小児医療センター

@scmc_pho



@scmc_pho



facebook



病院からのお知らせ
随時更新していきます！